

JD Farag 牧師 中東アップデート 2017 年 12 月 10 日公開

神の御名

今日は、エルサレムがイスラエルの首都である、という大統領の宣言の、預言的意味についてお話しします。これは歴史的だと言われていまして、確かに私もそれに同意します。しかし、私は歴史的という以上に、預言的だと思います。というのも、これによって引き起こされるであろう事と、またすべての事が、急速に起こっている為です。全てが、ものすごい速さで起こっていて、この2、3週間のうちに、世界舞台で起こった事が、さらに加速度を増して進んでいくのは、間違いないでしょうから。起こり得るシナリオをいくつか提示していきたいと思っておりますので、どうかお付き合いください。

その前に、これからお伝えする事は、あくまでも妥当なシナリオであって、「こうなる。」と言っているのではない事を、ご理解下さい。その可能性について断定的に言うつもりはありませんし、3つの預言を基にしたものを、妥当なシナリオとして、ただ提示するのみです。

3つの預言とは、次の箇所です。

- ①ゼカリヤ書 12:1-3
- ②第一テサロニケ 5:3
- ③ダニエル書 9:27

また、この預言についてよくご存じない方と、特に、オンラインチャーチの皆さんにお伝えしておきます。聖書預言を初めて聞いたという方も、大丈夫です。私たち全員が、この預言の点を結びつける事が出来るように、これらを簡単に説明したいと思っております。この点は、繋がらなければなりませんから。

まず、ゼカリヤ書 12:1-3 から始めます。

先週これについて詳しくお話ししましたが、ここには、エルサレムを分断することに、世がどれほど憑りつかれ、よろめくかが書かれています。ユダヤ人と、いわゆるパレスチナ人が、「平和に安全に」隣あって共存するために。これは皆さんの多くが、第一テサロニケ 5:3 でお馴染みですね。こちらもまた、実に具体的に書かれている預言です。

“人々が、『**平和だ。安全だ。**』と言っているそのような時に——” (第一テサロニケ 5:3)

ところで、補足的にお伝えしますと、水曜日にトランプ大統領がエルサレムをイスラエルの首都とする宣言をした時、彼は、まさにこの2つの言葉を使いました。『平和』と『安全』。これはまさに、使徒パウロが携拳についての記述の中で、テサロニケの教会に書いている内容で、次のように言っています。

“人々が、『**平和だ。安全だ。**』と言っているそのような時に、——”

何が起こるのか？それは、

“突如として滅びが、彼らに襲いかかります。それはちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、(彼らは) それをのがれることは決してできません。” (第一テサロニケ 5:3)

さて、それがダニエル書 9:27 の預言と繋がります。これは、大きな鍵となる預言です。反キリストが7年の平和協議を結び、3年半の時点、42か月で、新しく再建された神殿で、荒らす忌むべき事を行うというもの。非常に重要です。反キリストは、自分が神であると宣言し、自分を神として拝むように命じます。これは、7年の大患難の3年半の時点で起こります。

次に、あえて言いますと、これが今日、私がお伝えしたい事です。他の預言の中でも、これらの預言すべてが今日繰り広げられていて、そして、最終的な成就に向けてものすごい速さで進んでいる。これについて、何故そう思うのかを、説明させていただきます。

まずは、Jerusalem Post の金曜（12/8）の記事からです。

——安全保障理事会が、現在トランプに、中東和平案の詳細を提出するよう強要——

いくつか興味深い箇所を、抜粋してお読みします。

——イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、イタリアが、金曜日、アメリカ合衆国に、イスラエルとパレスチナ間の和平案の詳細の提示と、ドナルド・トランプ大統領の、「エルサレムがイスラエルの首都である」という、“役に立たない”発言に関して、説明を求めた。合同声明で、彼らは次のように伝えた。『我々には、共に和平プロセスを再開する為に、あらゆる“確かな”努力をする用意がある。それは、“国際的範囲での同意”が基準となっており、——

なに！？冗談でしょう？！地球上で唯一イスラエルだけは、「これが我々の首都だ」と言う権利が無い、と？

そうです。「国際社会によれば、そうなのだ！」と。そうですか？

「これの何が問題なんだ？」

よくぞ聞いてくれました。皆さん、聞きましたね？

問題は、“二国解決策”です。ところで、これに関して私は断言します。前にも、これについてお話ししましたが、もう一度言います。このいわゆる“二国解決策”というのは、ヒトラーの「最終的解決」の再梱包です。「それはまた、厳しい言い方ですね。」と思うかもしれませんが、そうですよ。しかし、よく考えてみてください。彼らは、イスラエルとの平和なんて、望んでいません。ちなみに、アラファト（パレスチナ自治区初代大統領）は、すべてを差し出されたのです。エルサレムまでも、です。しかし、彼は立ち去った。なぜか？それは、彼らがイスラエルとの平和など、求めているからです。彼らは、イスラエルの破滅を望んでいるのです。事実を言えば、彼らはここアメリカにいる間は、「我々は、イスラエルとの平和を望んでいる。」と言い、そしてラマラに戻ると、アラブ語でこう言うのです。「我々にとって平和とは、イスラエルの破滅だ。」

「破滅」とは、これまた興味深い言葉ですよ。突然の滅び？」そうです。この点と点が、どう結びつくか、お分かりですね？ヒトラーが「最終的解決」で目指していたものとは、地球上のユダヤ人を、一人残らず絶滅させる事です。そして、これがそれです。これがそれですよ。それが、いわゆる“パレスチナ”から出ているのです。

私は、両親から「私たちはパレスチナ人だ！」と育った人間です。「イスラエルは、私たちの土地を占拠している！」と。

確か 1994 年です。私が初めてイスラエル旅行から戻ってきて、「イスラエルから帰って来たよ。」と従兄弟に言ったのです。私はただ、イスラエル旅行が、どれだけ素晴らしかったかを言いたかっただけなのですが、彼はワナワナと私の顔を見て、こう言ったのです。「パレスチナ！」だから私は言いました。「違う。私が行ったのは、パレスチナじゃない。イスラエルだよ。」と。そして彼は、「あそこは、イスラエルじゃない！！」と。“イスラエル”と名前を言うのもやっつと様子で、「パレスチナだ！」と言いました。「パレスチナ人のものだ！」と。

ある動きをご存知ですか？

オンラインメンバーの人から、メールで画像が届いて、アメリカ本土の何処だったか忘れましたが、その看板に書かれていたのが、「イエスは、ムスリムだった」。さらに悪い事に、と言うべきでしょうか、本土で、

巨大看板に宣言してあるのです。「イエスは、パレスチナ人だった。」と。こういって、真のクリスチャンなら、そんな事信じないだろうと皆さんは思うでしょう。そうであれば、どんなに良い事かと思えます。しかし真実は、それが今日のクリスチャンの教会の中で起こっているのです。さらに踏み込んで言うと、この島の中でも、それは「パレスチナ人クリスチャン」で知られ、横行しています。

記事は続けます。これは、彼らの発言です。

——「アメリカ政権は、イスラエルとパレスチナ合意に関して、今後の詳細を、提示していただきたい。」
国連アメリカ大使のニッキー・ヘイリーは言いました。

「我々の行動の目的は、平和をもたらすのを助成する事だ。」

さらに、彼女は、次のように言いました。

「現在は、これまでの中で最も目標に近づいていると、我々は思っている。」——

さて、この「“和平協議”までに、これまでで最も近づいている」という概念は、次のRTの報道と一致しているようです。

——アメリカ国務長官のレックス・ティラーソンは、

「あと一撃で、アラブ、イスラエル対立を解決する協議だ。」と、におわせた。——

良く聞いてください。

——アメリカ国務省は、何十年も続いた、イスラエルとその周辺のアラブ諸国との対立を、“世紀の協議”の一つで、解決できると考えている。モスクワは、その計画の詳細が伝えられるのを、固唾をのんで待っている。——

しかし、固唾をのんでいるのはロシアだけではない、と言っておきます。イスラエルもまた、息をのんでいるのです。それは、これが和平案とセットになって、もたらされる可能性が高いからです。

と言うと、またエルサレムがイスラエルの首都であるという、大統領の宣言に対して、私が文句を言っているようにとられるのは分かっていますが、そうでないという事を、どうかご理解ください。私はそんな事は毛頭思いませんし、あれに対して、私は拍手を送ります。しかし、です。こちら、JewsNewsの興味深いコラムが、私が言うよりも、ずっとうまく言い表していると思います。このコラムのタイトルが疑問形になっています。

——イスラエルは、このトランプ大統領からのクリスマスプレゼントを、本当に望んでいるのだろうか？——

ここで彼が書いていることをよく聞いてください。これは12/5に書かれたものです。

——オッキーオッキーオッキー。世よ喜べ！トランプ大統領が、クリスマスの季節、我々にとってはハヌカの季節に、ついにアメリカ大使館が、エルサレムに移転することを発表する。皆、喜び踊るだろう。でも、私は違う。——

それから彼は、その理由を説明しています。

——ここ数年、このコラムを読んでいる方ならお分かりだろうが、私は、これ以上のものは望んでいない。これは夢の実現だ。しかも、これはおそらく悪夢だろう。6月に、私は「アメリカ大使館のエルサレム移転に対して、アーメン！」のタイトルで、コラムを書いた。しかし、我々が支払う対価は何だ？つまり、この贈り物には、どんな条件がついて来るのか。当時もこれについて提示したが、現代の大興奮の最中では、それをするのはさらに重要だろう。以下は、前回私が書いたことの一部だ。「イスラエルの願いの、このよう

な移行が、請求書も無くもたらされるとは、考えられない。」当時もそう思ったが、今回も同様だ。私は、トランプの事は心配していない。エルサレムは、正しい場所であり、トランプの心も正しい。——

私も同感です。しかし、聞いてください。

——彼の助言役たちは、未だに“二国解決案モード”にあり、彼らが心配なのだ。——

これにも、私は同感です。よく聞いてください。筆者の危惧はもっともで、差し出される“和平案／二国解決策”はどれも、エルサレムがイスラエルの首都である、という事だけでなく、ユダヤ神殿の再建も含まれなければならないのです。理解しておいてください。反キリストが、3年半の時点で、神殿で荒らす忌むべき事を行うためには、エルサレムに神殿が再建されている、という事が前提になるのです。

次に、このBreaking Israel Newsの記事を見てください。タイトルだけで驚きませんか？トランプが「エルサレムはイスラエルの首都である」と宣言した後、ほんの数日の間に、これらすべてが起こっているのです。「和平案は何処だ！」「第三神殿は何処だ！」「二国解決策は？」「さあ、始めようじゃないか！」興味深いですね。では、聞いてください。

——トランプのエルサレム宣言は、第三神殿に向けての巨大な一歩だ。——

これ、タイトルですよ。さっと、記事を読んでみましょう。

——「水曜日の事件、ドナルド・トランプ大統領による、エルサレムは、ユダヤ人の永遠の首都であるという宣言は、第三神殿創設と、メシア時代の到来に向けての、巨大な一歩となった。」と神殿再建に従事している、ユダヤ人活動家の多くは言う。——

ユダヤ教のラビのいうメシアとは、イエスではありませんよ？彼らはすでに、彼らのメシアを拒絶したのですから。だから、彼らは偽メシアを信じるのです。彼らは、イエス・キリストを拒絶した為、偽キリスト、反キリスト、キリストの代わりを受け入れるのです。それが、彼らの期待している者です。そして、私も含め多くの人が信じているのは、反キリストは、すでに健在だという事です。と言っても、第一テサロニケ2章にある通り、携拳で教会が取り去られるまで、明らかにはなりません。彼は、何らかの形でこの“究極の世紀の協議”を取りまとめるのです。これまで、誰も達成することの出来なかった事です。そして、ユダヤ人達はこの人物を見て、この人物の事を言うのです。「彼こそが、我々のメシアだ！彼が、神殿の再建を認めるのだから。」ピッタリ当てはまるのが分かりますか？こんな例えで申し訳ありませんが、神殿の再建は『最後の切り札』です。これは切り札なのです。私は、これが取引を固めるのだと、強く信じています。「世紀の取引」です。なぜそう言えるのか？

それは、今日のイスラエル、現在のイスラエル人、イスラエル内のユダヤ人に聞いたら、彼らは、神殿の再建の為なら何でもするし、何でも差し出す、それに関して、彼らを阻むものなど何も無いのです。「それをさせるなら、何でも欲しいものを持って行けば良い。」7年の和平協議？エルサレムの分割？我々には、ただ神殿さえくれれば良い。後は、何でも構わない。何でも好きなものを取ればよい。だから、神殿だけは与えてくれ。

私から見れば、これらすべての要となって来ると思います。つまり現在、“異邦人／イスラム”によって支配されている神殿の丘のユダヤ神殿です。ところで、これは黙示録11:1-2にある、もう一つの預言の成就にもなります。それによれば、7年の大患難の内、最初の3年半聖所の外の庭は、異邦人に踏みにじられます。だから私から見ると、黙示録11:1-2と、前述のダニエル9:27は、繋がっていると思います。ここに記されている最初の3年半に関して。

さらに踏み込んで言わせてもらおうと、反キリストが何らかの形で、イスラム教、ユダヤ教、それとカトリック教を世界統一宗教の名のもと、一つにまとめるのだと思います。そしてその中心はエルサレムになる。も

っと具体的に言えば、神殿の丘です。金曜日は、イスラムの礼拝の日、土曜日は安息日、シャバットはユダヤ教徒の礼拝の日、日曜日はカトリック教徒の礼拝の日、というようになるでしょう。ここで、私はカトリック教とキリスト教を同意語として使ったのではありません。理解しておいてください。「カトリック」とは「全世界の」という意味です。皆さんがご存知だとよいのですが、ローマ法皇達、特に現在の法皇は、ずっと世界中の宗教を、統一させることを目指しているのです。

もっと以前にさかのぼりましょう。ヨハネパウロ 2 世が“大成功”した時、1995 年でしたが、彼は全部の、本当に全部の世界中の宗教を終結させたのです。そして彼らは、全員で同じ神に向かって祈りました。さらに、私の記録の中には、ヨハネパウロ 2 世が、コーランにキスをしている写真がありますよ。どう思いますか？インターネットで出てきますよ。「Pope John Paul II kissing the Quran」で 検索してみてください。出てきますから。どう思いますか？

ところで、現在の法皇による、ある種の声明が、バチカンを通して発表されたとしても、皆さんは驚きませんよね？私は驚きませんが。「マリアは聖化され、イエスは汚された。」ものすごい冒涇ですよ。ここまでお話しするつもりはありませんでしたが、ローマカトリック教にとっては、マリアは「共同贖者」です。どういう意味だか分かりますか？「マリアは罪を犯さなかったため、罪を許すことが出来る。」お願いです。これは冒涇です。使徒パウロが、書簡の中で書いている通り、どうか無知にならないでください。無知になってはいけません。騙されないでください。

次の事を理解しておくのは、非常に重要です。これら 3 つの宗教は、全部エルサレムを主張しています。ニューヨークではなく、パリでもなく、カネオへでもなく、エルサレム。しかしながら、その権利があるのは一つだけ。それはユダヤ教です。それと、それに伴ってキリスト教です。それが意味するのは、イスラムの主張はどれも全く、完全に、さらに言えば、悪魔的に不当だという事。実際問題、エルサレムは、コーランの中にはただの一度も登場しません。これによって、イスラム教徒達が、どれだけコーランやその他を解釈しようとしても、アラブ語の複雑さを引き合いに出してみても、彼らの試みが全て打ち消されるのです。コーランにはエルサレムが一度も出てこないのですから。聖書には、エルサレムが何回出てくると思いますか？806 回です。旧約聖書に 660 回、新約聖書に 146 回。

次に、これらすべてから出てくる疑問は、「何故？」

何故、イスラムはそれを主張し、何故、世界はそれに憑りつかれ、よろめくのか？何故、エルサレムなのか？

答えは？いいですか？言いますよ？

エルサレムは、イスラエルの神が、所有者として、その御名を置こうと選ばれた、まさにその町だからです。また、文字通り主の御名が置かれているのは、エルサレムだけでなく、主は、彼の民にも、その所有者としての御名を永遠に置かれました。

ここで、神がその所有者としての御名を、主の都と、主の民、両方の上に置かれた事の、うっとりするような、“犯罪科学的”証拠をご覧ください。

まずは、神の民の上に置かれた、神の御名から始めます。これは、アラブ人としての私の生い立ちにさかのぼるのですが、中東では、このようになっています。子供のころ私は、母親がいつも、我が子に与えられる可能な限りの最高の祝福を、私の上に宣言するのを受けて育ちました。それは、「神の御名が、あなたの上にありますように。」と言うのです。残念ながら、私の母親に罪はないのですが、これをアラブ語で「Bismilla Alaik」と言いました。訳せば、「神の御名が…」。アラブ語で神とはアッラーで、聖書でもアラブ語では、神は常にアッラーと訳されています。これに関して、私の立場は皆さんご存知の通り、これもまた犯罪学的証拠がありますが、アッラーは神と同意語ではありません。アラブ語のアッラーは、神の名前であって、敬称ではありません。アッラーは偽神、イスラムは偽宗教、ムハンマドは偽預言者です。アッラーは月の神、これは偽神です。アッラーは、エホバと同じ真の生ける神ではありません。だから私がこの、「Bismilla Alaik」を、「Bism Yasua alaik」と変えました。ヘブル語では Yahshua (イエシュア)、アラブ

語では Yasua です。「イエスの御名が、あなたの上にありますように。」これは、人の上に宣言できる最高の祝福で、親が子供達の上に宣言します。

今ふと思ったので、少しお付き合いください。皆さんの中には、フラッシュバックを起こす人がいるかも知れません。お許してください。皆さんクイーンというサタンのロックグループの、「ボヘミアン・ラプソディ」という歌を、覚えていらっしゃるでしょうか？ところで、これも皆さんがご自分で検索できますので、私の言葉を鵜呑みにしないで、ご自分で調べてください。ともかく、その歌の中に、こんな箇所があるのです。

「Bismillah we will not let you go (お前を放さない)

Bismillah we will not let you go (お前を放さない)

let me go, let me go… (放してくれ)」

この歌が、私の記憶と心に染みついて抜けません。何年も経っているのに、このような歌は、一字一句変わらずに覚えていると言うのが、興味深いと思いませんか？Bismillah？アッラーの名前？それがあなたの上に？本当に？そして、私を放さない？「No！放さない！」「放してくれ！」「放さない！Bismillah！」Bismillah があなたの上に…。

これがただの偶然だと思いますか？これは、偶然ではありません。皆さんご存知であることを願います。

ともかく、「神の御名、真の生ける神の御名が、あなたの上にありますように。」というのは、私たちが宣言できる、最高の祝福です。そしてこれは、私たちがアロンの祝福と呼ぶ、民数記 6:22-27 に書かれている事です。読んでみましょう。

“ついで主はモーセに仰せられた。

「アロンとその子らに告げて言え。あなたがたはイスラエル人をこのように祝福して言いなさい。主があなたがたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」”

次の 27 節をよく聞いてください。

“彼らが**わたしの名**でイスラエル人のために祈るなら、わたしは彼らを祝福しよう。” (民数記 6:22-27)

御名です。では、都はどうでしょう？
第二歴代誌にはこう書かれています。

“ただ、エルサレムを選んでそこに**わたしの名**を置き——” (第二歴代誌 6:6 前半)

“主が、**ご自分の名**を置くために、イスラエルの全部族の中から選ばれた都、エルサレムで、十七年間王であった——” (第二歴代誌 12:13 後半)

“——わたしは、この宮に、わたしがイスラエルの全部族の中から選んだエルサレムに、**わたしの名**をとこしえに置く” (第二歴代誌 33:7 後半)

とこしえに、です。

“エルサレムに、**わたしの名**を置く。” (第二列王記 21:4 後半)

では、神の御名とは何でしょう？「神」というのが、敬称である事は分かっていますが、それなら主の御名は何ですか？感謝な事に、神の性質について、聖書は沈黙しておらず、それは神の御名についても同様です。

その御名の一つは、「エルシャダイ」これに関して、一人の解説者が次のように書いています。これは、「聖書における最初の記述の法則」に関して告げています。

——ヨブ記が聖書の中で最古の書である事は、広く認められている事だが、そして、ヨブが父祖の時代に生きていたという事は、一般的に受け入れられていて、どうやら、アブラハムよりもさらに前の時代であったようだ。——

その為に、ある聖書教師や学者の中では、ヨブは、他にもないペトラに住んでいたようだとされているのです。現代のヨルダン、岩の町ペトラです。

——ヨブ達にとって、共通の神の名前は、「エルシャダイ」——

アダム・クラークは、その解説書の中でこう記しています。

——「エルシャダイ」とは、「わたしが全てを満たす神である。」という意味で、これは注ぐという意味の、「シャダ」から来ている。

「わたしは、祝福を注ぐ神であり、豊かに、豊富に、継続して与える神である。」——

アリゾナ州、カルバリーチャペル・フェニックスの、マーク・マーティン牧師は、次のように説明しています。

——ヘブル語の「シン」は、ユダヤ人がエルシャダイの略語として使用する文字だ。エルサレムの旧市街は、「シン」の形によく似ていて、それは、全能の神が、文字通り、その御名をエルサレムの中と、その上に置かれた事を示している。——

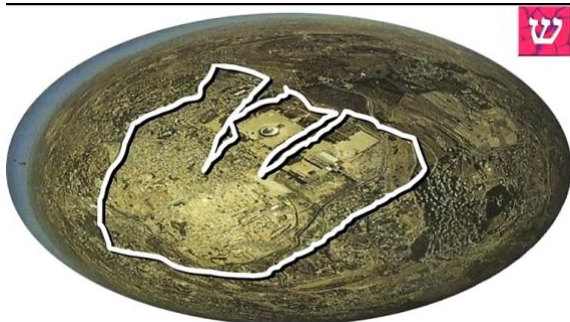
神がその御名を置くために、イスラエルの全部族の中から選ばれた都です。

次に、これがものすごく興味深く、ものすごくワクワクするのです。

「シン」は、英語の「W」のような形で、これが神の御名、エルシャダイの略語です。



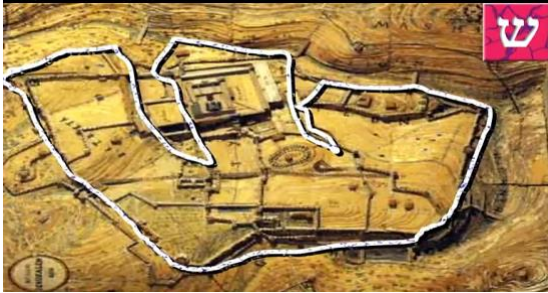
エルサレム旧市街の写真と、私が手書きした、エルサレム旧市街の壁の画像と、ヘブル語の「シン」とを重ね合わせてみますので、ご覧ください。まずこちらが一枚目。



ここで、とても興味深い事があるので、よくご覧ください。「シン」の三位一体性をよく見てください。それから、「シン」の三位一体の2番目が、神殿のある場所だという点に注目してください。これを指摘する

理由は、名前は性質を表すからです。そうですね？これが三位一体性を保っているもの、父なる神、子なる神、聖霊なる神です。そして「シン」の2番目が、まさに神殿の位置していた所なのです。

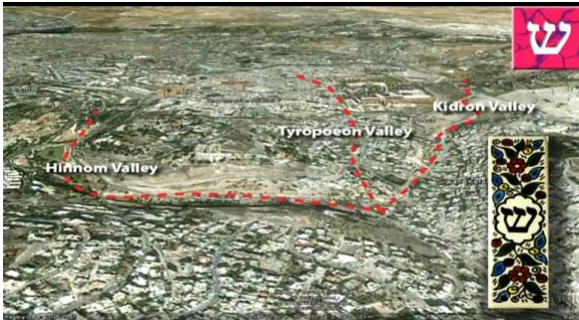
次に、もっと細かく見える木彫りをご覧ください。そのエルサレムの都の上に、「シン」を重ねてみます。



次に、航空写真です。その中の「シン」でも、神殿が「シン」の2つ目の部分に来ている点に注目してください。



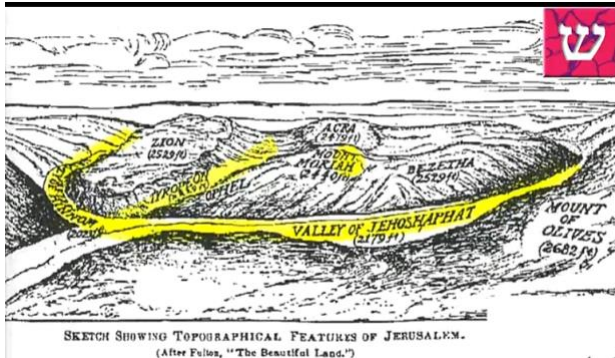
さらにもっと興味深いのが、神の御名が置かれているのは、エルサレムの町だけでなく、エルサレム周辺の3つの渓谷にもあるのです。この写真の中の、赤い線はヒムノの谷、Tyropoeonの谷、キデロンの谷です。これもまた、「シン」の形をしています。



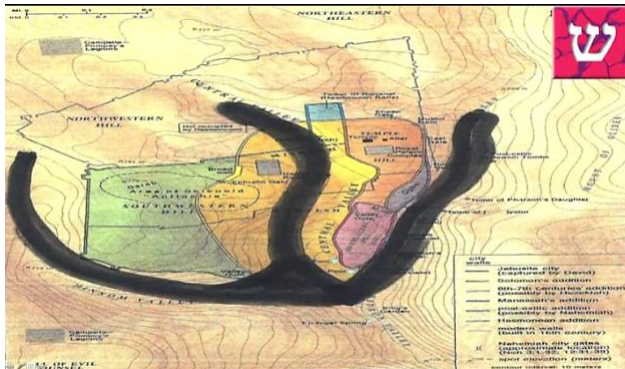
こちらは、違う景観からです。神殿の位置を黄色の○で囲ってみました。



それから、3つの谷など、エルサレムの地理を絵に描いたもので、谷だけでなく、エルサレムの旧市街です。



そして最後に、こちらもまた別の景観で、「シン」がくっきりと見えています。



という事で、結論です。

エルサレムは、他でもなく、イスラエルだけのものである。また、永遠に、イスラエルの神のものである。以上です。

しかしながら、平和の君が新しいエルサレムを支配し、統治するまで、これらの事はエルサレムに起こります。それらが起こると預言された通りです。しかし、良い知らせがあります。イエス・キリストの信者として、神の御霊によって新しく生まれ、イエスに従う者は、これらすべてが起こる時、ここには居ません。何故か？それは、私たちは7年の大患難の前に、ここから取り去られるからです。私たちは、取り去られなければなりません。7年の大患難の目的は、ユダヤ国家の救いの為です。これは、ダニエルの70週目（ダニエル書9章）、ヤコブの困難の時です。ヤコブとは誰ですか？別名、イスラエルです。神は、7年の大患難の間、その全意識をイスラエルに向けられます。7年の大患難の終わりに、イスラエルの全家が救われるのです。私たちは、ここには居ません。私たちは、ここから取り去られます。

次に、大事なことです。それは、主の御名を呼び求めて、救われた者だけである、と言う事です。もし、今日ここに居られる方々に、偽の希望を与えるなら、私は果てしなく不誠実になります。もし、あなたが主の御名を呼び求めた事がないなら、これら全てが起こる前に、ここから取り去られる、というこの祝福された希望は、あなたにはありません。この理由から、私は最後に救いの ABC として、子供にでもわかるほど簡単な形で、イエス・キリストの福音をお伝えします。これは、主の御名を呼び求めた事の無い人、罪の赦しについて、主を信頼していない人、または、定かではない人、全員に当てはまります。クリスチヤンの家庭で育ち、教会に行っていたかもしれない、聖書を持っている人もいるでしょう。読んだことはなくても、聖書は持っている、と言う人。それらの事には、何の意味もありません。「洗礼を受けたよ」なんて事は、何の意味もありません。イエスが言われたのです。

“人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることは出来ません。” (ヨハネ 3:3)

これから、新しく生まれる方法をお伝えします。実に簡単です。福音とは、簡単なものです。ABC と同じくらい、簡単です。



A=Admit/認める、Acknowledge/認識する

自分が罪人であり、救い主が必要である事を、認める。もしくは、自分が聖なる義の神の目に罪を犯した事を、認識する。ローマ書にはこう書いてあります。

“「義人はいない。ひとりもない。」 (ローマ 3:10)

私たちは皆、罪人として生まれました。だから、私たちは、霊的に新しく生まれなければならないのです。ローマ 3:23 にはこうあります。

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ず、” (ローマ 3:23)

ローマ書 6:23 が私たちに告げているのは、私たち全員に、死刑が待ち構えているのだという事。なぜかと言うと、

“罪から来る報酬は死です。しかし、——”

ここが良い知らせです。

“しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。” (ローマ 6:23)

エペソにはこうあります。

“あなたがたは、恵のゆえに、信仰によって救われたのです。それは自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。誰も誇ることはない為です。” (エペソ 2:8-9)

なんとか頑張っ、手に入れられると思う事の無い為です。それが A です。次に B。

B=Believe/信じる

B は、イエス・キリストが主であると、心で信じる。ローマ 10:9-10 にはこうあります。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。” (ローマ 10:9-10)

C=Call/呼び求める、Confess/告白する

最後に、主の御名を「呼び求める」。ローマ書にはこうもあります。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。” (ローマ 10:9-10)

そして最後に、ローマ 10:13 にはこうあります。

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」” (ローマ 10:13)

もしあなたが、これまでに、一度も主の御名を呼び求めて救われていないなら、お願いです。今日、それを行ってください。今日が救いの日です。私が牧らせていただいている、この素晴らしい教会の中にいる方も、もしくはこれをオンラインでご覧になっている方も、どうかお願いします。今がその時、今日が救いの日です。

祈りましょう。

主よ。感謝します。私たちは、あまりにも多くの事が、ものすごい速さで起こるのを目にしています。あなたは、これらの事が起こり始めたなら、と言われました。これらが起こり始めたら、からだをまっすぐにし、頭を上げなさい、と。私たちの贖いが近づいていますから。主よ。あなたはまた、これらが起こる前に、これらの事が起こると、私たちに知らせておく、とも言われました。それが起こった時に、私たちが信じるためです。主よ、確かに、あなたがこうなると言われた事が、今、私たちの目の前で起こっています。ですから主よ。どうか、今日ここにいる人の中に、もしくは、これをどこかで見ている人の中に、あなたに降参していない人、あなたの御名を呼び求めた事のない人が居るなら、今日、彼らが救われますように。今日が彼らの救いの日になりますように。明日でなく、今日。後でなく今、今です。主よ。最後に、私たち、あなたを知り、あなたと共に歩んでいる者には、あなたが大きな励ましをお与えください。特に傷つき、失望している人達、頑張る事につかれている人達に。主よ。あなたが、私たちの待ち望むべきことを、思い起こさせてください。私たちが待ち望むべきものは天国で、それを思えば、今この世で私たちが直面している事も、乗り越えられることが出来ます。主よ。ですから、この祝福された希望に感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD フェラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、 「DIVINE US」 (日本語) を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。

また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」
ヘブル 4 : 7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい